定置網漁業で飯を食うぞ！

－　漁師へ転身・定置網へ転換　－

谷山漁業協同組合
横　山　裕　幸

１．　地域の概要

鹿児島県の県庁所在地である鹿児島市は，平成１６年に合併が進み人口が６０万人を超える南九州最大の都市である。目前に雄大な桜島と豊かな自然を育む鹿児島湾を擁し「東洋のナポリ」とも称され，新幹線の全面開業に伴い多くの観光客が訪れる風光明媚な観光都市でもある。

鹿児島市の魅力の一つである鹿児島湾は，内湾でありながら水深が２００ｍを超える深海を持つ，世界に類を見ない湾である。ここはまた，マダイ，マアジ，カマス，タチウオ，マダコ，ナミクダヒゲエビ，海藻類等，浅海から深海まで多種多様な水産資源に恵まれた豊かな漁場でもある。

谷山地区は鹿児島市の南部に位置し，周辺に大型新興住宅地を控え，近年大規模な商業施設が次々と進出し，鹿児島市の新たな中心地区として発展している（図１）。

図１　位置図

２．　漁業の概要

鹿児島市には４つの漁業協同組合が存在し，私の所属する谷山漁業協同組合は正組合員４４人，準組合員５２人の小さな漁協で，組合員の高齢化が進み，組合員数は減少傾向にある。漁協の事業は購買事業と指導事業だけであるため，経営は厳しく，組合員からの賦課金と行使料等で運営している。

主な漁業種類は刺網，一本釣り，定置網，潜水漁業等の小規模で零細な漁船漁業であり，マダイ，マアジほか多種多様な魚類やウニやナマコを漁獲している。漁協で市場を開設していないため，組合員が約１０㎞離れた鹿児島市中央卸売市場等に直接出荷している。

３．　研究・実践活動取組課題選定の動機

私の家は，谷山地区で代々漁業を営み，父は，つぼ網漁業（箱網（魚獲部）のない小型

定置網漁業：以下「つぼ網」という。）と延縄漁業を行っていた。そのため，私は小さい頃から漁業に親しみ，将来は漁業で生計を立てたいと思いながら，地元の高校卒業後県内の企業に就職した。

しかし，漁業への夢も捨て難く，就職してからも１０年余り，仕事が終わった夕方から夜に操業する父のつぼ網の手伝いをしていた。

つぼ網を手伝う中，多数のアジやサバ等が網に刺さって死んで捨てられるのを見て，「この魚を出荷できるような落網式の小型定置網（以下「落網式定置」という。）にすれば漁業で飯が食っていけるのではないか。」，「漁業で生活したい。」という思いが募る一方，「この落網式定置を開始する為の多大な資金はどうするか。」，「５～６人操業で乗り子を雇ってまで経営が成り立つのか。」，「父も漁業で生活するのは厳しいと言っている。」という否定的な思いもあり，悶々としながら過ごしていた。

そうした中，平成２４年７月に，漁協内に「谷山漁協朝獲れ直販グループ」が設立され，毎月１回，第４日曜日に，近くの港で，その日に獲れた魚にこだわった活魚を中心とする直売活動（谷山漁協朝獲れ市）を開始した（写真１）。父がそのリーダーとなって活動していたので，私もその活動を手伝っていた。その中で消費者が新鮮な魚を喜びながら購入していく姿を何度も見ると，「早く漁業を始めて，とびっきり新鮮な魚をこの人達に食べてもらいたい。」，「新鮮な地魚を消費者は求めている。」，「新鮮な魚を提供すれば，きっと漁業で食っていける。」という思いが強くなった。また，父も直販活動をする中で，私と同じ思いを抱くようになったようだ。

写真１　朝獲れ市の様子

４．　研究・実践活動状況及び成果

(1)　落網式定置の開始

私が着業を決意したのは平成２５年の年明け早々であった。

まず，県の水産指導普及員に，参考になるような定置網の視察先や資金の相談を行った。そして，県内外の定置網を数ヶ所見て回り，操業形態，初期費用，網のメンテナンス，出荷の工夫等様々なことを学んだ。

そうした中，県青年漁業士の方が，定置の網地の仕立や設置を自分で行い，操業も２人で行っていることを知り，定置の操業は５～６人が普通という考えから抜けることができ，「自分で仕立てるという方法もあるんだ。」と驚き，「これならやれる。飯を食っていける！！」という強い気持ちが生まれた。

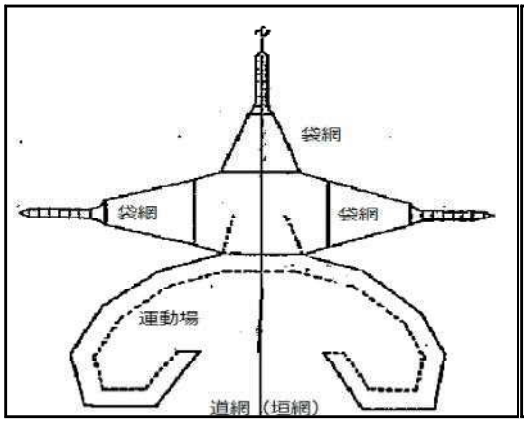
資金は，平成２５年１０月に沿岸漁業改善資金の青年漁業者等確保資金（漁業経営開始資金）を申し込んだ。第１回の貸付審査会では，「漁業が極めて厳しい中，いき

なり脱サラして定置網を始めて成功できるのか。」という委員の意見も有り，承認していただけなかった。異例の第２回の貸付審査会では私も出席を求められた。

その中で網地の仕立と設置は父と自分で行うことで費用を2/3に抑えること，父と２人で操業できるような網の仕様にすること，これから設置しようとする漁場は，海底地形も定置網に適しており，過去には相当の水揚げがあり，漁獲の見通しも立つことを説明した。そして，最後に勤めている会社に辞意を表明したことを述べ，着業する強い意志を示した。

その後，私の決意を汲んでくださった関係者の御努力，御理解のお陰で平成２６年２月上旬に，この無利子資金を借り入れることができた。

同時に父もつぼ網から落網式定置に転換する決意を固め，網地等資材を２統を購入し，１週間に１度のペースで製網会社から指導員を迎え，父と私，手伝い人の３人で網の仕立を行った（図２，図３）。



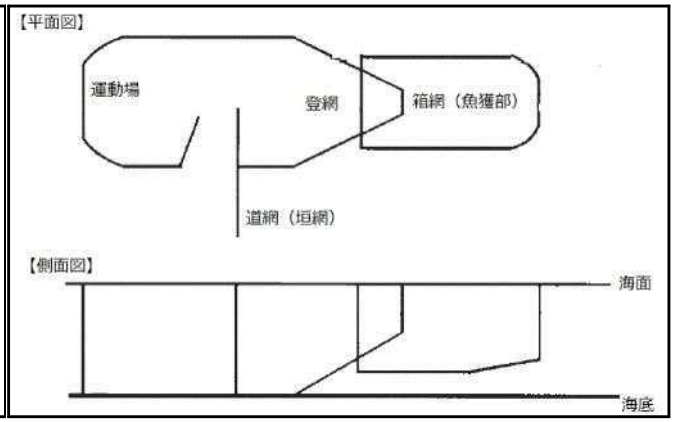


図２　つぼ網平面図　　**図３　落網式定置側張り図**

私は，つぼ網の補修などは手伝っていたものの，定置網を網地から仕立てる作業は初めてで，最初は設計図と作業している所が頭の中で結び着かない状態が続いた。焦りながらも，後には引けないという思いの中，父と力を合わせ，足かけ５ヶ月で設置までを行った（写真２，写真３）。平成２６年８月２２日に初漁があり，アオアジやゴマサバ等が漁獲でき，「これからこの漁業で飯を食うんだ！」という思いが込み上げて来たのを覚えている。

写真２　完成した網に御神酒をかけて祈念　　**写真３　網の設置作業**

定置網の操業は，夜１２時に出航し，父の定置，私の定置と順に網揚げを行い，朝６時頃港に着き，選別，箱詰めをして市場等へ出荷する毎日である。真夜中に起きて漁に行く生活は，なかなか寝付けなかったり，起きるのが辛かったりしたこともある。

しかし，サラリーマン時代とは違い，操業や出荷の工夫が獲れる魚の量や水揚げ金額に跳ね返り，全て自分の収入になるなど，やりがいの方が大きい。また，子供の学校の行事等に参加できるなどスケジュールを自分で管理できる点は，漁師の大きな魅力だと感じている。

（２） 漁具の改良（金庫網（袋網）の設置）

操業を開始すると，これまでつぼ網では網に刺さって出荷できなかった，アジやサバをはじめとする回遊魚が多く獲れるようになった。瀬付の魚を主体に獲っていたつぼ網では，資源減少の不安もあったが，回遊魚主体に漁獲する落網式定置は，幅広い資源を利用できる為，長く漁が続けられるという安心感がある。中でもジンタン（豆アジ）は，つぼ網では全く獲れなかったが，落網式定置では大量に獲れ，活かせば，高値でまぐろ延縄船の餌となり，思わぬ収獲となった。

しかし，箱網（魚獲部）内に入網を確認したはずのブリやスズキが網を揚げてみると逃げられていたことが続いたことから，その対策が必要だと気づいた。

そこで，製網会社等にいろいろ聞いてみると，金庫網（袋網）を付ければ，ブリ等がその中に入り，逃亡を防げることが分かった。だが，製網会社に見積もりを依頼すると，製作，設置に百数十万円掛かるとのことで，着業したばかりの私にはとてもその費用は出せない。また，自分で製作，設置するにしても金庫網は各々の漁師が創意工夫している，言わば企業秘密だ。おいそれと教えてもらえるものではなかった。

それでもいろいろな人の話から，大まかなイメージをつかみ，父と相談しながら独自に製作，設置することにした。目合いや長さなどを変え，また，父と私と別々の仕様で設置したりと試作を繰り返した。試作の効果の確認のためにメジナ等の活魚を市場から購入し，箱網や試作した金庫網に放流し，魚の行動を観察した。関係者からは「漁師が魚を買いに来る。」と笑われながらも，魚の金庫網への入網や金庫網からの逃亡を確認することができ，大きな知見を得られた。このようにして，７回目にしてようやく納得するものができあがった（図４）。

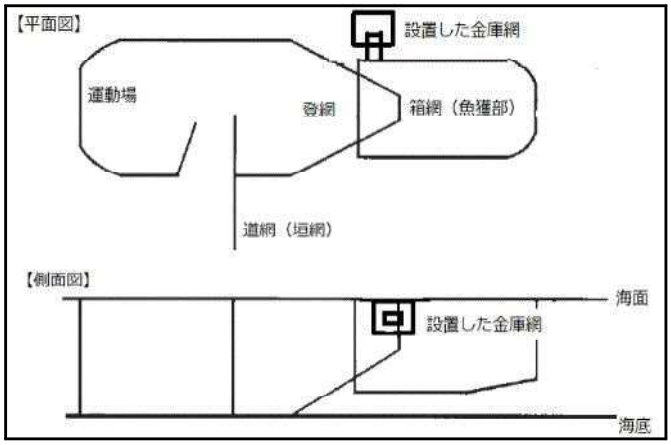


図４　金庫網設置後の側張り図

丁度，納得できる金庫網ができた時期に合わせたかのように，平成２７年１０月に「谷山地区水産業再生委員会」の先進地視察に参加する機会があった。その中で無理を言って，長崎県西海市の落網式定置の漁業者と金庫網の実物を見ながら情報交換ができる機会を設けていただいた。そこで，私たちが試行錯誤してたどり着いた金庫網を説明したところ，それを高く評価していただき，大いに自信を持ったのを覚えている（写真４）。

写真４　視察状況（金庫網を見ながらの情報交換）

（３）　未利用魚（カタボシイワシ）の販売

５，６年前からカタボシイワシが大量に入網するようになり，多いときには１統に２～３トンも入る。味は良いが小骨が多いこの魚は，市場に出しても値段がつかず，網に刺さり，その後処理に苦労する厄介者として捨てていた（写真５）。「もったいないなあ。」と思い，調理師である妻に協力してもらいながら，いくつかの調理方法を試しつつ販路はないかと水産指導普及員等へ相談していた。

写真５　網に刺さったカタボシイワシ

そのような中，私は漁業士ではないのだが，縁あって，平成２７年１１月１２日に行われた，県の「漁業士と連携した低利用水産物価値創出支援事業」の商談会に，県水産技術開発センターの指導を受けながら試作したカタボシイワシの薩摩揚げを出品させていただいた（写真６）。この商談会は，県内の未利用，低利用の魚介類やその加工品を県内外の加工業者や販売業者に紹介して，これらの販路の拡大を目指す取組である。

写真６　商談会の様子

出品した薩摩揚げが参加していた県内加工業者の目にとまり，後日，取引きが始まった（写真７）。同時に県外の流通業者からは，「この魚を寿司ネタにすることができれば買い取る。」との話があった。これまでの調理試作の経験から，酢締めを丸一日すれば小骨が気にならなくなることが分かっていたので，酢締めしたものを送ったところ，相手に気に入っていただき，これも取引が始まった(写真８)。

写真７　商品化されたカタボシイワシのさつま揚げ　　写真８　酢締めしたカタボシイワシ

（4） 成　果

関係者の皆様の御指導，御協力と，一緒に落網式定置を始めてくれた父のお陰で次のような成果を得ることができた。

① 私は子供の頃からの夢であった漁師となることができた。サラリーマン時代より高い収入と昼間の自由な時間を得た。

② つぼ網から定置網へ転換し，瀬付き魚の資源に依存していた状態から，マアジを中心にした鹿児島湾の豊かな回遊魚を利用できるようになり漁獲高も増加した（図５）。

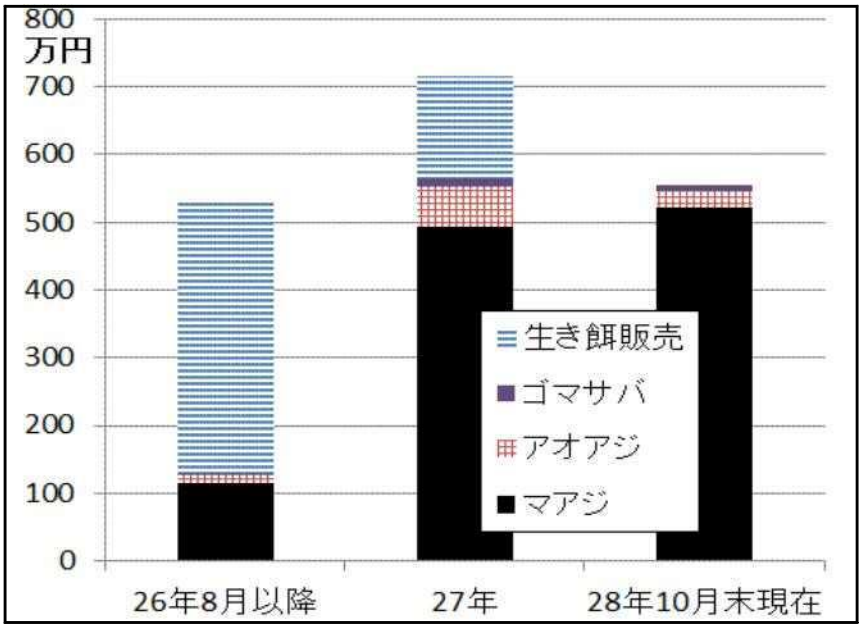


図５　落網式定置転換後に新たに出荷できるようになった主要魚種の市場出荷額とまぐろ延縄生き餌（豆アジ）の販売額（父，私の合計）

③　金庫網の製作・設置により，ブリやスズキなどを漁獲できるようになり，さらに収入の増加が図られた（図６）。

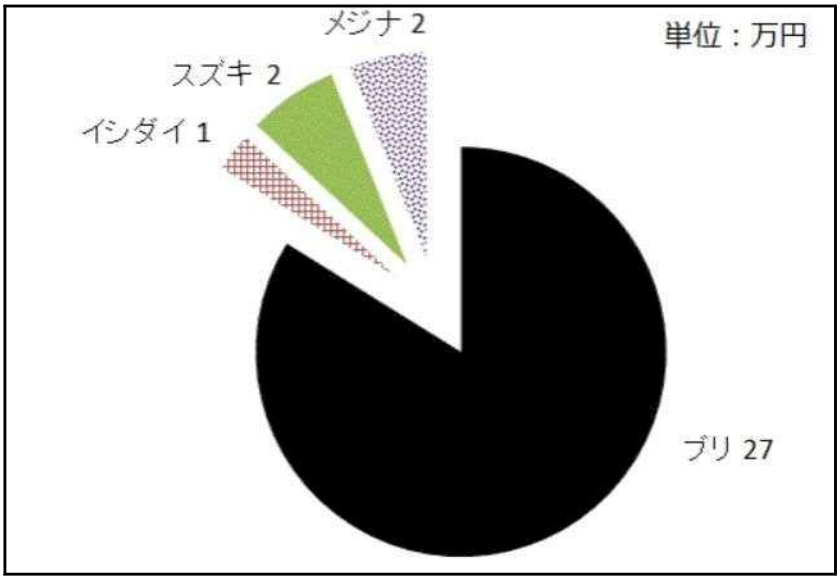


図６　金庫網で漁獲される主要魚種の市場出荷額
（父，私の合計Ｈ２８年１月～１０月分）

④　これまで捨てていたカタボシイワシが販売できるようになり，さらなる収入アップ（１割増）の見通しがついた。

⑤　上記の取組（表１）により安定した高い漁業収入を得ることができるようになった（図７）。

表１　取組一覧

年	取組内容	関連事項
H13～24	父を手伝い2人でつぼ網を操業（1統）	H24年7月　漁協直販グループの設立 毎週第4日曜日の朝市の開始
H25	1月　漁業就業を決意 県内外の落網式定置網の視察 10月　沿岸漁業改善資金に貸付申請	
H26	1月　貸付決定 2月　資金の借入と資材の発注 4月　資材の納入と仕立ての開始 8月　落網式定置の敷設完了と初漁	
H27	1月　独自に金庫網の製作・設置開始 試作を7回行う 9月　金庫網の設置完了 10月　長崎県西海市の視察で独自製作の金庫網に自信 11月　商談会でカタボシイワシの販路が開拓された	3月　直販グループの簡易加工場の整備 直販グループ物産館等への販売開始 4月　はえ縄業者が落ち網式定置に転業（1統）
H28	1月　独自に金庫網の製作・設置開始 試作を7回行う 9月　金庫網の設置完了	8月　谷山漁協小型定置網グループ設立

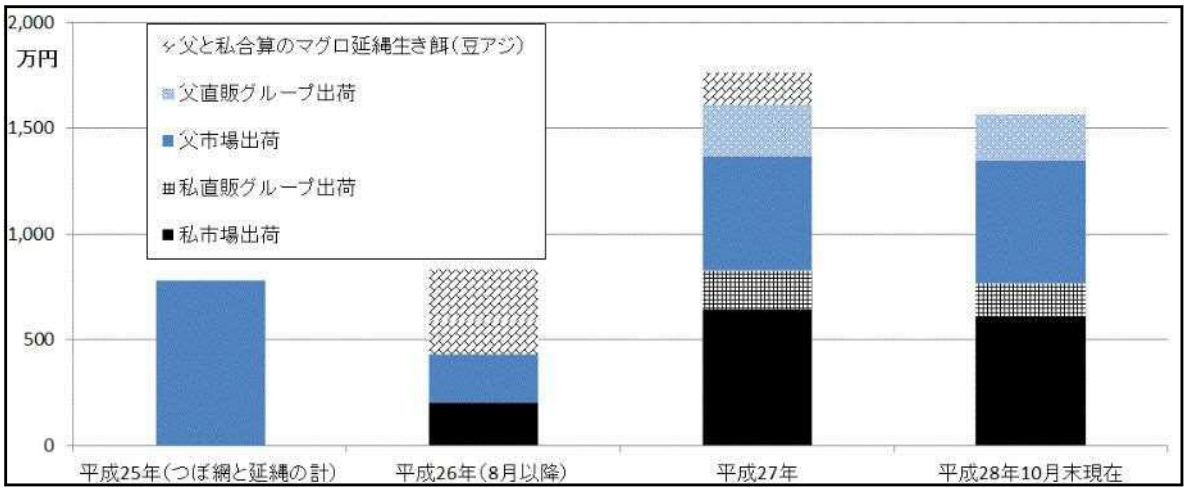


図７　父と私の出荷先別販売金額

５．　波及効果

私と父が落網式定置を始め，それをきっかけに１年後には，新たに延縄漁師が落網式定置に転換し，私を含め３統の新たな定置網が漁協内に誕生した。金庫網設置のノウハウや開拓したカタボシイワシの販売ルートも共有し，地域の定置網の発展に寄与した。

また，「谷山漁協朝獲れ直販グループ」の地魚直販活動に，この定置網の新鮮な魚が重要な供給源となり，この活動に弾みがついた。県の補助事業による簡易加工場の整備や市主催の旬の魚キャンペーンの効果による取扱店の増加もあり，年々その販売額は増加している（図８）。

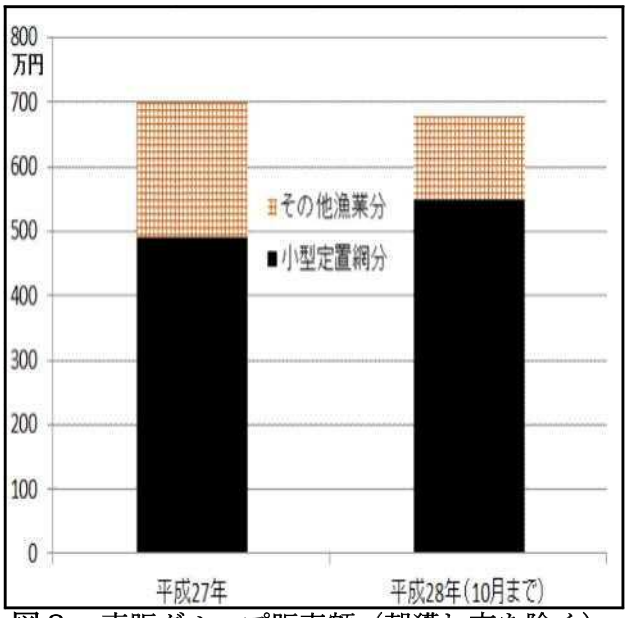


図８　直販グループ販売額（朝獲れ市を除く）

６．　今後の課題や計画と問題点

平成２８年３月に「谷山地区浜の活力再生プラン（浜プラン）」が水産庁から承認され，５年をかけて地区漁業者の所得の３割増を目指すことになった。その中で，生産量を増大させる取組の一つとして，定置網の新たな漁具改良が課題として盛り込まれた。

具体的には，登網の取付部分に刺さって死んでいるマダイ，ヒラメ，ブリ（その損失は推定で一統２００万円以上）を活きたまま漁獲するための改良を検討している。

その為に，平成２８年８月に谷山漁協小型定置網グループを設立し，県の浜の活力再生支援事業を活用して，３統共同でこの改良を成功させたいと考えている。

その他，地域活性化の取組として，市が事務局となる鹿児島地区水産業改良普及推進協議会の「子供漁師塾」で釣り体験，定置網操業見学が大変好評であった（写真９，写真１０）。漁協では４０隻近くの遊漁船業者が登録されており，定置網と一緒に活動してい

けば，将来的にはブルーツーリズムを花咲かせることができると思う。

また，浜プランでは，漁協の直売所建設も盛り込まれ，「谷山漁協朝獲れ直販グループ」と連携しながら直販活動を強化する計画である。私も定置網をますます盛んにし，その安定的な供給源となるとともに，この活動に協力して盛り上げたいと考えている（図９，写真１１）。

最後に，父母，妻の理解や周りの方々の協力により，私は子供の頃からの夢であった漁師になることができた。このことに感謝しながら，「どんなことがあっても，こいつ（定置網）で飯を食うぞ！！」という強い意志を持った漁師で有り続けたいと思う。

写真９　子供漁師塾釣り体験の様子

写真１０　子供漁師塾定置網見学の様子

図９　直販グループの販売先（５カ所）

写真１１　直販グループの活動風景